

令和2年度 学校教育学科 一般推薦試験講評

○課題文について

課題文は、鈴木謙介『未来を生きるスキル』（2019年 角川新書）より引用して用いた。

○設問1 傍線部アで、筆者は「『自己効力感を高めることが大切』と述べていますが、「自己効力感」を高めるとはどのようなことですか。課題文に即して二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「自己効力感」とは何か、「高める」とはどのようなことかを本文中より捉えて、精度の高い文章で記述したものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「自己効力感」の定義など、一つの事柄のみの説明で終わるものや、本文中の文言を羅列するに留まり、文章構成力に欠ける解答が見られた。

○設問2 傍線部イで、筆者は「他者との違いのなかでできることがはじめて生まれてくる」と述べていますが、これについて、あなたはどのように考えますか。課題文を踏まえながら、自分の体験や見聞をまじえて、六〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。

「他者との違いのなかでできること」について触れながら、「自分はどんな貢献ができるかと考えて協力することや「人の事情は尊重することなどについて、論理的な文章構成で述べたものを高く評価した。

【講評】

自分の体験や見聞を根拠としながら、「他者との違い」について述べられている解答が多く見られたが、出題ポイントである「この集まりではどんな貢献ができるのか」と考えて協力するという内容についてまで、触れられた文章は少なかった。